

# 自己評価報告書

2026 年版

評価対象期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

## 1. 教育目標

- 1-1. 日本の大学又は専門学校進学後の学校生活及び社会生活において、自立した日本語使用者として、相手の真意を的確に理解し、自らの意思を正確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付ける。
- 1-2. 「日本語教育の参照枠」に基づく五つの言語活動を通して、修了時に B2 相当の日本語運用能力の習得を目指す。
- 1-3. 日本文化・日本事情への理解を深めるとともに、自ら学習目標を設定し、在学中及び卒業後も日本語学習を継続できる力を育成する。

## 2. 教育理念

日本における高等教育機関への進学という生徒一人ひとりの留学目的の達成を支援し、日本語学習とともに日本文化・日本事情への理解を重視します。また、在学中のみならず、卒業後も継続して日本語学習を自律的に行うことができる能力を育成します。

## 3. 評価項目の取り組み状況

(1) 認定日本語教育機関の目的及び目標の達成状況に関すること。

評価項目	適切・ほぼ適切・やや不適切・不適切			
	4	3	2	1
教育目標、理念は定められていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
教育目標、理念は社会の動向と学生のニーズを踏まえていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
教育目標、理念などが学生や保護者・紹介機関に周知されていますか。	4	・ ③	・ 2	・ 1

【改善点】 教育目標・理念は定められ、社会の動向と学生のニーズを踏まえている。一方、学生、保護者及び紹介機関への周知については、説明内容に差が出ないよう整理する余地がある。

【次年度対応】 入学時説明、募集要項、学生向け資料及び紹介機関向け説明で用いる教育目標・理念・到達目標の表現を確認し、必要に応じて記載を整える。

(2) 教員及び職員の組織運営に関すること。

評価項目	適切・ほぼ適切・やや不適切・不適切			
	4	3	2	1
運営方針や事業計画は定められていますか。	4	・ ③	・ 2	・ 1
情報システム化等による業務の効率化が図られていますか。	4	・ ③	・ 2	・ 1
施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう整備されていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
経験を問わず、所属する教職員を対象に、振り返りの機会を設け、情報の共有や成果の確認を行っていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
他機関の実施する研修会等への参加を促していますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1

【改善点】 運営方針及び事業計画は定められているが、教職員への共有時期及び年度末の確認方法を明確にする余地がある。業務効率化についても、日常の記録・連絡方法を簡素に整理する必要がある。外部研修への参加促進は適切に行われている。

【次年度対応】 年度当初に運営方針・事業計画を共有し、年度末に実施状況を確認する。日常業務で使用する記録・連絡方法を整理し、外部研修への参加促進は継続する。

(3) 施設及び設備に関すること。

評価項目	適切・ほぼ適切・やや不適切・不適切			
	4	3	2	1
教室内は十分な照度があり換気がなされていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
視聴覚教材や ICT を活用した授業が可能な教育用機器及び設備が備わっていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1

【改善点】 施設・設備は教育上必要な状態で整備されている。引き続き、不具合発生時の対応内容を記録し、確認しやすい状態にしておく必要がある。

【次年度対応】 教室・設備の点検を継続し、不具合があった場合は対応内容と完了状況を記録する。

(4) 日本語教育課程の編成及び実施に関すること。

評価項目	適切・ほぼ適切・やや不適切・不適切			
	4	3	2	1
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1

【改善点】 教育課程の編成・実施方針は教育理念に沿って策定されている。今後は、授業運営の中で目標、活動、教材、評価のつながりを継続して確認する。

【次年度対応】 各科目の授業実施状況を確認し、必要に応じて学習活動、教材及び評価方法を見直す。

(5) 卒業の認定及び学習の成果に関すること。

評価項目	適切・ほぼ適切・やや不適切・不適切			
	4	3	2	1
卒業の認定基準（出席率、成績評価、その他必要な要件）は明確に定められ、学生に周知されていますか。	4	・ ③	・ 2	・ 1
学生の学習成果を定期的に確認する評価方法が適切に実施されていますか。	4	・ ③	・ 2	・ 1

【改善点】 卒業認定基準と学習成果の確認は実施しているが、出席、成績、到達状況、ポートフォリオ等を用いた判定の流れを学生に分かりやすく説明する必要がある。

【次年度対応】 課程開始時に卒業認定基準と評価方法を説明し、年度末の修了判定時には成績、出席、到達状況の確認結果を記録する。

(6) 生徒への学習上及び生活上の支援に関すること。

評価項目	適切・ほぼ適切・やや不適切・不適切			
	4	3	2	1
進学・進路に関する支援体制は整備されていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
学生相談に関する体制は整備されていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
学生の健康管理を担う組織体制はありますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
学生の生活環境への支援は行われていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1

【改善点】 学習上及び生活上の支援体制は整備されている。引き続き、相談内容、対応内容及び結果の記録を残し、必要な支援が継続されるよう整理する。

【次年度対応】 支援が必要な学生について、対応内容と結果を記録し、必要に応じて関係教職員で共有する。

(7) 教育活動等の改善を継続的に行う仕組みに関すること。

評価項目	適切・ほぼ適切・やや不適切・不適切			
	4	3	2	1
教育目標に合致した教育活動の計画を作成していますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
学生の熟達度を、特定の試験の成績だけで判定するのではなく、「日本語教育の参照枠」の枠組みの中に位置づけて理解する試みを行っていますか。	4	・ ③	・ 2	・ 1
学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
出席簿を備え、正確に記録していますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
授業を含む教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っていますか。	4	・ ③	・ 2	・ 1
学生や時代のニーズに合ったカリキュラムや教育方法の工夫や開発などがされていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1

【改善点】教育目標に沿った活動計画、クラス編成、出席記録、カリキュラム上の工夫は行われている。一方、熟達度を参照枠の枠組みで捉える取組と、授業を含む教育活動全体の検証については、確認時期と確認内容をより明確にする必要がある。

【次年度対応】外部試験結果に加え、授業内評価、課題、発表、面談等から学生の到達状況を確認する。年度途中と年度末に、授業・成績・出席・支援状況を確認し、翌年度の授業改善につなげる。

(8) 財務に関すること。

評価項目	適切・ほぼ適切・やや不適切・不適切			
	4	3	2	1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
財務について会計監査が適正に行われていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1

【改善点】財務基盤及び会計監査は適正に確認されている。引き続き、募集に係る支出を含め、教育活動に必要な経費の確保状況を確認する必要がある。

【次年度対応】予算・決算・監査の確認を継続し、募集に係る支出を含め、教育活動に必要な経費が確保されているか確認する。

(9) 情報公開

評価項目	適切・ほぼ適切・やや不適切・不適切			
	4	3	2	1
機関の設置者、教育内容、定員、進路等の情報をホームページ等で公開していますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
募集及び納付金に関する情報を公開していますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
入学希望者やその関係者に理解できる言語で情報提供を行っていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1
公開されている情報は常に最新のものに更新されていますか。	④	・ 3	・ 2	・ 1

【改善点】情報公開は適切に行われている。引き続き、日本語版と外国語版の内容、更新日及び自己点検結果の掲載状況を確認する必要がある。

【次年度対応】掲載内容を年度末に確認し、変更があった場合は速やかに更新する。自己点検結果は6月末までに公表する。